

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2006年11月1日報告

2006年3Q(7-9月)調査結果 目次

1	2006年3Q(2006年7-9月)結果の要約	3	8.2.1 欧州	26
2	地域別累積加入推移(四半期別)	7	8.2.2 中南米	26
2.1.	BRICs(中国 インド ロシア ブラジル)加入推移	10	8.3. 2006年メーカー別需要量予測	29
3	方式別加入推移(四半期別)	12	9 Nokiaの2006年3Q動向	31
4	2006年加入者予測	15	10 Motorolaの2006年3Q動向	34
4.1.	地域別	15	11 Sony Ericssonの2006年3Q動向	37
4.2.	方式別	16	12 Benqの2006年3Q動向	39
5	主要オペレータ加入者数推移	17	12.1. Benq Mobileドイツの状況	39
6	地域別オペレータ最新動向	21	13 Samsungの2006年3Q動向	41
6.1.	アジア	21	14 LGの2006年3Q動向	44
6.2.	欧州	21	15 6社以外の2006年3Q動向	47
6.3.	北米	21	15.1. 欧州メーカー	47
6.4.	中南米	21	15.2. 日本メーカー	47
7	主要ネットワークメーカーのモバイルインフラ部門 売り上げ推移	22	16 端末メーカーの部品発注状況	48
8	端末需要動向推移	23	17 端末各社の出荷計画	48
8.1.	2006年3Q(7-9月)需要動向	23	18 製品在庫状況	49
8.2.	地域別端末最新状況	26		

2006年3Qの世界の携帯電話市場概

加入者数推移

7-9月期の世界の新規加入件数は前期2Qとほぼフラットになった。地域別ではアジア、欧州が前期を上回った。アジアはインドの新規加入が中国を上回り、新規加入ベースでは今後中国に替わってインドが牽引することになる。アジアではインド、中国以外にパキスタンも新規加入を伸ばしており、パキスタンの新規加入はBRICsのブラジルよりも多い。アジアではパキスタンのほかインドネシア、バングラデシュもポストBRICsとしての潜在性がある。

欧州では同じBRICsのロシアがやや停滞した。2006年に入りブラジル、ロシアの成長は急速に鈍化に向かい、新規加入を加速させているインドとは対照的な加入動向を示している。

北米ではT-Mobileを除く大手各社の加入発表は出揃った。CDMA陣営ではVerizon、SprintNextelで加入者数の明暗を分けた。

中南米ではブラジルが前期に対して3Qの新規加入は持ち直した。ブラジルオペレータ大手4社の内、GSM陣営のTIM、Claro、Oiが着実に加入を伸ばしたのに対し、CDMA陣営Vivoの新規加入は低迷、3Qも赤字決算を余儀なくされている。Vivoは2007年3月までにCDMAからGSMへの転換を図り、

上半期までに GSM ネットワークを完成させるとしている。

中東/アフリカは TurkCell 以外大手オペレータの加入動向は未発表であるが、同地域の加入発表 27 社の加入推移から判断すると、3Q の新規加入はほぼ前期並みの状況と思われる。

端末需要

3Q の端末需要は 2Q を上回った。

3Q では Nokia、Sony Ericsson がシェアを上げ、Motorola はやや足踏みした。Nokia は前期 2Q に対して大幅増になった。急増の背景は同社のローエンド 1000 番台シリーズが貢献したためで、1000 番台シリーズは 3Q で同社販売台数の過半を越えた。3Q の販売はローエンド構成が高まったことから端末平均単価 (ASP) は前期 102 ユーロから 3Q は 93 ユーロまで下落した。(Nokia 発表ベース)

Sony Ericsson は Nokia とは対照的にミッド、ハイエンドの販売が好調に推移した結果、Nokia を抜いて初めて端末部門収益率でトップメーカーになった。

一方 2005 年以降 RAZR の牽引によりシェアを挙げていた Motorola は 3Q でややシェアを下げた。

iDEN の低迷、RAZR の値崩れ、インド向けローエンドの増大から端末営業利益、ASP とともに前期 2Q を下回った。

韓国メーカーの Samsung、LG は前期水準を上回る販売台数を達成した。特に Samsung は薄型の Ultra Edition が好調な売れ行きを示した。LG は米国向けの出荷が急回復し停滞した欧州向け出荷をカバー、営業利益では 3 期ぶりに黒字に転じた。

Benq は赤字が継続している Benq Mobile ドイツへの支援を停止し、事実上 Benq-Siemens ブランドは終焉することになる。Benq は欧州市場の撤退に続いて、ブラジル工場を閉鎖、中南米市場からも撤退する。Benq は今後ハイエンドに特化し、販売地域もアジア、東欧に絞り収益回復に専念することで生き残りを図ることになる。